

環境に配慮した農業への取組について

JAとうや湖(洞爺湖町)



【組織等の概要】

- 所在地：虻田郡洞爺湖町香川55番地7
- 構成地区：洞爺湖町・豊浦町・壮瞥町・伊達市大滝区
- 正組合員数：324名 ※2023年1月時点
- URL：<http://www.touyako.jp/syoukai/gaiyou/>

【クリーン農業の取組】

- 1987年3月に北海道では初めてとなる広域合併農協として近隣5農協の合併により誕生して以来、環境との調和に配慮しながら、安全、安心、高品質な農畜産物を提供するために「クリーン農業(※1)」に取り組んでいる。主な取組として、YES!clean認証(※2)や雪蔵野菜貯蔵施設(※3)等がある。
- 2023年度は19作物、15集団でYES!clean認証を取得。今後はPRIにさらに力を入れYES!clean認証農産物の認知度向上を目指す。
- 雪蔵野菜貯蔵施設により、年間約280MWhの商用電力を軽減し、省エネルギー化や年間約155トンの二酸化炭素の排出抑制につながっている。

(※1)クリーン農業：堆肥等の有機物の施用などによる土づくりに努め、化学肥料や化学農薬の使用を必要最小限にとどめる等、環境と調和した安全・安心、高品質な農産物の安定生産を進めるために、北海道が推進している農業。

(※2)YES!clean認証：クリーン農業によって生産された農産物を認証する北海道独自の制度。

(※3)雪蔵野菜貯蔵施設：1つの建物の中で雪氷庫と貯蔵庫に分かれており、雪氷庫には雪を、貯蔵庫には野菜を貯蔵している。

【GLOBAL G.A.P.への取組の経緯と概要】

- 各量販店がGLOBAL G.A.P.(以下、GGAP)を参考とした独自の調達基準を定めるようになったことから、取引先に合わせて複数のGAPを取得しなくても良いように、2009年11月にJA・系統組織では日本で初めてGGAP認証を取得した。
- GGAP認証を取得したメリットとして、販路の拡大、作業所の片付けをすることによる生産効率の上昇、農薬や農機具の整理整頓をすることによるけがのリスクや農産物への異物混入のリスクの低減等が挙げられる。
- 最近では、GGAP認証品を取り扱う量販店も増える動きがあるため、認証取得継続の意向。
- 2023年は、ばれいしょ、にんじん、かぼちゃ、キャベツ、レタス、だいこん、トマト、ミニトマト、ピーマン、セロリの10品目でGGAP認証を取得。今後は、さつまいもの認証取得を検討。



GGAP認証を取得した野菜